

# News Letter

## Joining & Welding Research Institute

- ◆ 日産自動車 溶接・接合共同研究部門設立式
- ◆ お知らせ
- ◆ 第1回 大阪大学月面都市開発研究センター講演会
- ◆ 受賞・人事
- ◆ 行事報告、ニュース
- ◆ 編集後記

Contents

## 日産自動車 溶接・接合共同研究部門設立式

森貞 好昭

接合機構研究部門 接合界面機構学分野 特任准教授

2026年2月3日、大阪大学接合科学研究所と日産自動車株式会社による「日産自動車 溶接・接合共同研究部門」の設立式および開所記念講演会が、大阪大学吹田キャンパス銀杏会館において開催されました。

本共同研究部門は、大阪大学接合科学研究所が有する先進的な接合・積層造形技術と、日産自動車のモノづくり技術を融合し、次世代自動車の開発加速を目的として設立されたものです。設立式では、大阪大学 熊ノ郷総長、日産自動車株式会社 平田執行役 チーフモノづくりオフィサーより挨拶が行われたほか、文部科学省 国分科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課長より祝辞が述べられました。続いて、日産自動車株式会社 鈴木執行職 車両生産技術開発本部 本部長より、共同研究部門設置の趣旨説明が行われました。

また、開所記念講演会では、接合科学研究所 藤井所長より「阪大接合科学研究所発の接合、AM（3Dプリンティング）技術の紹介」と題した講演が行われ、接合科学研究所で開発された摩擦攪拌積層造形（AFSD）技術や高輝度 X 線透過型溶接接合機構 4次元可視化システムなどの先端技術が紹介されました。さらに、日産自動車 溶接・接合共同研究部門 研究代表者の樽井氏より、「共同研究部門による自動車モノづくりの進化」と題した講演が行われ、自動車産業における接合・積層造形技術への期待や今後の展望について紹介されました。

本共同研究部門では、AFSD 技術を活用した高品質・高速な積層造形技術の実用化に加え、高輝度 X 線透過型溶接接合機構 4次元可視化システムを用いた各種接合現象の解明を通じて、次世代自動車に向けた革新的なモノづくり技術の創出が期待されています。今後、産学連携による研究開発を一層推進し、我が国の接合・製造技術の発展に貢献していく予定です。



## 報告

## 第1回 大阪大学月面都市開発研究センター講演会の開催

URA 森下 麻紗代

広報データ管理室 (兼)月面都市開発研究センター

令和8年3月17日(火)に第一回大阪大学月面都市開発研究センター講演会が接合科学研究所荒田記念館にて開催されました。本講演会は当初、同日に開催される月面都市開発研究センター運営委員会の運営委員およびセンター員向けの勉強会の位置づけでしたが、貴重な講演を幅広い皆様に聞いていただこうと急遽一般公開したものです。昨年、月着陸ミッションを実施し、新聞・テレビで話題となった株式会社 ispace から講師をお招きし、月輸送・実証サービスの事業開発担当の佐藤崇徳氏が「ispace が目指す”シスルナ経済圏の構築”」、ミッション4プログラムマネージャーの田中健一郎氏が「ispace ミッションの振り返り：技術要因分析と後続ミッションへの取り組み」という演題で講演を行いました。シスルナ空間(地球と月の間の空間)で展開される資源開発、輸送、通信、エネルギー供給などの産業活動は、まさに月面都市開発研究センターが目指す月面での生活や安定的な経済活動の確立に大きく寄与するものです。また、ミッションの振り返りの中での失敗分析、そして次回に向けてよりアップグレードされたランダーの開発状況など、月に着陸できる未来はもうすぐそこまで来ているのだということを体感する講演でした。対面だけの講演会にも拘わらず、84名の様々な年齢層の参加があり、月面・宇宙へ夢をはせる方が多いことにも驚かされました。

令和8年4月1日より、月面都市開発研究センターは産業科学研究所の附属センターから外れ大阪大学先導的学際研究機構(OTRI)附属センターとして、全学組織に移行いたしました。この早い時期での移行は、接合科学研究所をはじめとした月面都市開発センターに所属する研究者が優れたシーズをもとに民間企業や宇宙ビジネス関係者との連携を進めつつ、国家プロジェクトへの共同申請を行い続けた結果もたらされたものです。月面都市開発研究センターは今後も優れた研究を行いつつ、このような講演会やシンポジウムを通して最先端の宇宙ビジネスや宇宙にかかる優れたシーズや研究成果を報告していく予定です。



参加者の様子



講演の様子

## 報告

## 若山内閣府大臣政務官が接合科学研究所を視察

植原 邦佳

技術部 技術専門職員

令和 8 年 4 月 27 日、若山慎司内閣府大臣政務官が接合科学研究所を来訪され、当研究所の最新の研究設備および研究活動について視察されました。

はじめに、大阪大学月面都市開発研究センターの設立について、藤井英俊接合科学研究所長（月面都市開発研究センター長 兼任）より報告がありました。同センターが掲げる月面 1 万人都市建設計画の構想や、その実現に向けた大阪大学の取り組みとして、大気生成技術をはじめとする基盤技術の概要について説明が行われました。さらに、本学における宇宙関連研究のこれまでの実績や強みについても紹介され、学際的な研究体制のもとで先進的な研究が推進されていることが示されました。続いて、接合科学研究所が有する 3 種の AM 技術（①青色マルチビームレーザーAM、②セラミックスAM、③固相AM）ならびに、線形摩擦接合をはじめとする接合関連の研究設備についてご見学いただきました。見学では、実際の装置を用いた実験デモンストレーションも行われ、各技術の特徴や応用可能性について具体的な説明が行われました。若山政務官は各説明に熱心に耳を傾けられ、研究者や学生に対して多くのご質問を寄せられるなど、高い関心を示されました。

見学後には、大阪大学に宇宙関連の研究センターが設立されたことの意義や、月面 1 万人都市構想がもたらす社会的・科学技術的インパクトについて、活発な意見交換が行われました。宇宙分野における我が国の競争力強化や、理系・人文学系を問わず大阪大学の多様な分野の英知を結集することの重要性など、多岐にわたる観点から議論が展開されました。

最後に、若山政務官より、本研究所のこれまでの研究成果に対する高い評価とともに、今後のさらなる発展に対する期待と心強い激励のお言葉を頂戴し、視察は盛況のうちに終了しました。



## 新任教授紹介

## 接合構造化解析学分野

柴原 正和

接合評価研究部門 接合構造化解析学分野 教授

2026年4月1日付で、接合科学研究所 接合評価研究部門 接合構造化解析学分野の教授に着任いたしました柴原正和と申します。歴史と伝統ある大阪大学接合科学研究所の一員として研究・教育活動に携わる機会を頂き、大変光栄に存じます。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

私は、1997年3月に大阪大学工学部船舶海洋工学学科を卒業後、大阪大学大学院工学研究科船舶海洋工学専攻に進学し、2002年3月に博士(工学)の学位を取得いたしました。その後、金沢工業大学を経て、2005年より大阪府立大学、現在の大阪公立大学において教育・研究活動に従事して参りました。また、2002年より大阪大学接合科学研究所に共同研究員として関わらせて頂き、2012年からは招聘准教授、2025年からは招聘教授として兼務させて頂きました。さらに、2020年11月からは大阪府立大学ならびに大阪公立大学 計算科学研究所所長も務めて参りました。



研究では一貫して、溶接・接合に起因する変形、残留応力、割れ現象などを対象とした計算科学・数値シミュレーション技術の研究に取り組んで参りました。溶接・接合技術は、造船、橋梁、自動車、航空宇宙、エネルギープラントなど、社会インフラやものづくり産業を支える基盤技術であり、その高品質化・高信頼化は極めて重要な課題です。特に、溶接時に生じる局所的な加熱・冷却は、複雑な熱応力や残留応力、さらには変形や強度低下を引き起こすため、それらを高精度に予測・制御するためのシミュレーション技術の重要性は年々高まっています。

私は、有限要素法を基盤とした溶接力学解析技術の高度化に加え、大規模構造物に対して高速かつ高精度に適用可能な数値解析手法の研究を進めて参りました。特に、理想化陽解法 FEM の開発を通じて、大規模溶接構造物に対する高速変形解析技術の構築に取り組み、造船・橋梁・大型構造物分野への応用研究を行ってきました。また、GPU を活用した超並列解析技術により、従来は困難であった大型構造物解析とマイクロ組織解析を両立するマルチスケール解析にも取り組んでおります。さらに、AI 技術を融合したデジタルツイン技術や、熟練技能のデジタル化を目指した AI 線状加熱技術の研究にも注力しております。

さらに、摩擦攪拌接合(FSW)、セルフピアスリベットティング(SPR)、レーザ加工、アディティブ・マニファクチャリング(AM)などの先進接合・加工プロセスに関する研究も進めています。特に、Euler 法を活用した FSW および SPR 解析技術の開発や、溶接高温割れ進展挙動の解析技術の構築を通じて、複雑な接合現象を高精度に再現・予測可能なシミュレーション技術の高度化に取り組んでいます。近年のカーボンニュートラル社会実現に向けた軽量構造化や高機能材料利用の拡大に伴い、異材接合技術の重要性が急速に高まっています。そのため、材料科学、接合科学、計算科学、データ科学を融合した次世代接合シミュレーション技術の構築を目指しています。

また、教育面では、単なる解析技術者ではなく、「現象を本質的に理解し、自ら課題を発見・解決できる研究者・技術者」の育成を重視しております。接合科学は、材料、熱、力学、加工、情報科学など多くの分野が融合した学際領域であり、広い視野と柔軟な発想が必要とされます。そのため、学生には専門知識だけでなく、異分野融合的視点や国際感覚を身につけてもらえるよう努めて参ります。

接合科学研究所は、世界トップレベルの接合科学研究拠点として、基礎研究から社会実装まで幅広い研究活動を推進しています。私は、これまで培ってきた計算科学・シミュレーション技術を基盤として、本研究所のさらなる発展に貢献するとともに、日本のものづくり技術の発展と社会課題解決に貢献して参りたいと考えております。今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

## 新任教授紹介

## 日本製鉄ものづくり未来協働研究所

西畑 ひとみ

共同研究部門 日本製鉄ものづくり未来協働研究所 教授

このたび、2026年4月1日付で大阪大学接合科学研究所の教授（クロスアポイント）に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。民間企業で研究開発に携わってきた立場から、まずは簡単に経歴をご紹介します。

学生時代は東北大学の工学部材料系に所属し、学部4年次から溶接・接合の研究室に所属しました。当時ご指導いただいた粉川博之先生、佐藤裕先生のもとで、卒業研究・修士研究では鉄鋼材料ではなく、TiやAl合金の摩擦接合（摩擦圧接、FSW）に関する研究に取り組みました。就職後もお縁があり、2015年には社会人博士として再び母校の研究室にお世話になり、博士号を取得いたしました。



企業では一貫して研究開発部門に在籍し、最初の約10年は薄板分野の利用技術開発の中で、主に溶接・接合に関する研究開発に携わってきました。抵抗スポット溶接やレーザ溶接を中心に、社内の材料・表面処理分野の研究者とともに開発中の新材料の溶接性評価を行う一方で、自動車メーカなどお客様の溶接課題の解決にも取り組み、時にはお客様と共同で部品・構造の開発に取り組むことも経験しました。その後は、商品開発からやや距離を置いた研究所に異動し、加熱過程における変態挙動の理解や、放射光を用いたその場観察、現象を明瞭に観測するための材料設計など、解析技術と材料設計を合わせた研究に触れる機会を得ました。

さらに直近の数年間、材料設計と利用技術開発（構造・成形など）が同居する組織にて、材料寄りの立場から研究開発に携わるとともに、課長として研究推進や社内外の連携、職場のマネジメントにも従事しました。そして本年4月に、再び溶接・接合の研究部門へ戻り、厚板や特殊鋼の溶接といったこれまでとは異なる領域を担当することとなりました。これまでの経験を活かしつつ、新たな分野について学び直しながら研究に取り組んでいるところです。

さて、日本製鉄ものづくり未来協働研究所は、ものづくりの未来を拓く革新的な溶接・接合技術の開発を目指し2021年に設置されました。大阪大学接合科学研究所および工学研究科における溶接・接合分野の最先端の学術研究と、日本製鉄の持つ材料技術を融合し、鉄鋼材料の潜在能力を最大限に発揮させる先進的な接合技術の研究開発に取り組んでいます。

本協働研究所では、固相接合も含めた難接合材の新接合プロセス開発、溶接部で問題となる各種割れの原因解明やモデル化とその対策指針の導出、さらには溶接部におけるガス吸収や拡散に関する研究など、基礎から応用まで幅広いテーマに取り組んでいます。接合科学研究所および工学研究科の先生方や学生の皆さんと議論させていただく中で、多くの刺激と学びを得ています。

今回、クロスアポイントという形で大阪大学に所属することとなり、企業と大学の双方に身を置く立場となりました。この立場を活かし、産学の“懸け橋”として、研究と人材の循環に貢献していきたいと考えています。大学における学術的な探究の深さや自由な発想に触れることは非常に刺激的であり、そうした経験を自身の成長につなげつつ、企業と大学の双方に還元していきたいと思っています。

接合・溶接の研究は、材料、プロセス、構造、評価など多様な分野と関わりながら進められる領域です。接合部は構造物の弱点・ボトルネックになることもありますが、材料と材料、部品と部品をつなぎ合わせ、新たな形や機能を生み出す重要な役割も担っています。その意味で「接合」は、人と人、組織と組織をつなぐ役割にも通じる分野であると感じています。

研究においては、「何が起きているかを理解する」だけでなく、その知見を踏まえて「どうすれば改善するか」といった指針や提案につなげていくことを常に意識しています。今後もこうした姿勢を大切にしながら、接合科学研究所の発展に微力ながら貢献していきたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願いいたします。

## 新任准教授紹介

## 接合構造化解析学分野

生島 一樹

接合評価研究部門 接合構造化解析学分野 准教授

2026年4月1日付で、接合評価研究部門 接合構造化解析学分野の准教授として着任いたしました生島一樹と申します。

私は、大阪府立大学（現・大阪公立大学）工学部 海洋システム工学科を2009年に卒業後、同大学大学院 工学研究科 航空宇宙海洋系専攻 海洋システム工学分野にて博士前期課程・後期課程を修了し、2014年に博士（工学）を取得いたしました。博士課程では、同じく4月1日付で接合構造化解析学分野の教授に着任されました柴原先生のご指導を受けました。学位取得後は、同分野において特認助教、テニユアトラック助教を経て、准教授として研究・教育に携わってまいりました。



専門は溶接力学解析および非線形構造解析で、博士課程以来、実大構造物の溶接力学シミュレーション手法である「理想化陽解法 FEM」の研究開発に一貫して取り組んでおります。これまでに、大型鋼構造物建造時の溶接変形予測、多層溶接時の残留応力予測、電流一熱一力学の連成解析によるスポット溶接継手のナゲット形成予測と延性破壊強度の検討、溶接組立の影響を考慮した船体構造の崩壊挙動解析などの研究を進めてまいりました。

接合科学研究所では、これまで培ってきた溶接力学解析のさらなる発展に加え、金属積層造形時の材料の力学的挙動予測や、摩擦攪拌接合における欠陥形成機構の解明など、新たな研究課題にも積極的に取り組みたいと考えております。また、研究成果の社会実装にも力を注ぎ、溶接・接合分野の発展に貢献できるよう努めていきたいと考えておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 行事報告

## 多次元造形研究センター 2号館改修工事の完了

桐原 聡秀

多次元造形研究センター 積層造形学分野 教授

多次元造形研究センターは、経済産業省が産学連携の更なる推進策として公募した、地域オープンイノベーション拠点選抜制度(J-Innovation HUB)に採択され、令和7年度における施設の改修事業を進めた。年度末の令和8年3月にセンター2号館の工事が終了し、オープンラボ7室からなる総床面積674㎡のリニューアルが完了した。本センターのミッションは、接合科学研究所で考案された独自の積層造形プロセスを、産学連携により産業実装へ繋げることである。造形した部品を既存の機器へ溶接接合する構造化プロセスも検討している。本研究所は長年にわたり、高品質の溶接接合部を形成する研究開発を続けてきたため、施工条件の加減により亀裂発生を誘発することも可能である。すなわち、複雑な部品を精密に接合し、大型の構造物を自在に分離できるのである。前述のJ-Innovation HUB事業においては、大型実験設備の導入もサポートされており、接合分離に関わる冶金現象を実験観察できる装置として、熱間加工再現試験機（Gleeble社製）を設置した。オープンラボスペースは令和8年5月時点で、既に3室が産学連携プロジェクトの遂行で利用されており、活発な研究開発が進められている。新規の研究開発に施設ならびに装置の時間利用も可能であり、本研究所における共同研究は随時受け入れている。



## 行事報告

## 第2回溶接管理技術者のための研修会及び資格試験の実施

勝又 美穂子

グローバル D&amp;I 推進室 准教授

2025年11月24日～28日の4日間、昨年に続き、ベトナムで二回目となる溶接管理技術者のための研修会が開催されました。研修会修了の翌日、29日には筆記試験が実施されました。この資格は日本では日本溶接協会が認証しており、ベトナムでの実施においては、ハノイ工科大学と日本溶接協会が連携して認証を行っています。今回は、当研究所及びハノイ工科大学が溶接技術者育成を目指して取り組んでいる JICA 草の根技術協力事業の一環として開催されました。研修会は Welding Engineer (WE) レベル (WES 8103\* 1 級と同等) と Associate Welding Engineer (AWE) レベル (同 2 級と同等) の 2 コースを開催しました。受講者はそれぞれ WE が 6 名、AWE が 4 名、そして再受験者 (昨年講習に参加) が 2 名でした。講習会の講師は本学接合研の田中教授、浅井特任教授、三上教授、及び熊本大学の寺崎教授がご担当されました。ベトナムでは、溶接に限らず、技術レベルの維持、向上に関する国内の資格・認証の整備がまだ十分ではなく、それら技術の質の担保には国際レベルの資格制度の導入と普及は喫緊の課題です。今後も引き続きハノイ工科大学機械工学部溶接グループとの連携の下、これらの取り組みに尽力したいと考えます。

\*日本溶接協会規格

## 大阪大学接合科学研究所同窓会 2025 年度ウインターフェスタ

山下 享介

接合機構研究部門 接合界面機構学分野 助教

2026年2月28日(土)に大阪大学接合科学研究所同窓会の近況報告会であるウインターフェスタが開催されました。前回に引き続き、対面+オンラインのハイブリッド形式での開催となりました。今回は登壇者を含む 40 名の方にご参加いただきました。上山智之会長からの開会挨拶の後、はじめに本研究所の武井優子特任助教から、ダイヘン溶接・接合協働研究所における取り組みや得られた成果についてご紹介いただきました。その後、学生近況報告として、真崎雄大氏から、自己紹介と現在取り組んでいる研究内容について報告いただきました。国内在住の卒業生からの近況報告として、日酸 TANAKA の山本健太郎氏から自己紹介と最新の切断技術についてご紹介いただきました。その後、海外在住の卒業生からの近況報告として UC Louvain(ベルギー)の博士課程学生である虎本陸希氏から、自己紹介、海外の大学における生活および現在の研究内容について報告いただきました。最後に藤井英俊所長から閉会の挨拶がなされました。いずれも大変興味深いお話であり、会員同士の親睦を深める貴重な機会となりました。2026 年度も引き続き総会および近況報告会の開催を予定しておりますので、皆様の同窓会への加入およびご参加をお待ちしております。

## 第 17 回ベトナム溶接研究会

勝又 美穂子

グローバル D&amp;I 推進室 准教授

ハノイ工科大学機械工学部と大阪大学接合科学研究所とで実施している JICA 草の根技術協力事業・溶接技術者育成能力向上事業からの支援も受け、2026年1月28日～1月29日の2日間にわたり、第17回ベトナム溶接研究会をホーチミン市で開催しました。2日間共に研究会からの参加者は32名、盛況でした。同事業の支援を受け、本学及び企業の専門家6名も渡航しました。1日目は、ホーチミン工科大学との共催による「接合科学に関する国際セミナー」を開催し活発な質疑応答が行われました。2日目は、ホーチミン市中心部から車で約1.5時間に位置する Dai Dung 社の工場を訪問しました。Dai Dung 社は1995年に設立され、その後日本のゼネコンと共に ODA 案件に携わりながらその技術力を高め、今やベトナム国内は勿論、各国の競技場やランドマーク的建造物の建設にも従事する勢いのある企業です。



## 行事報告

## 国際産学連携溶接計算科学研究拠点(CCWS)主催 第18回講演会

麻 寧緒

接合評価研究部門 接合構造化解析学分野 教授

2026年3月6日(金)、国際産学連携溶接計算科学研究拠点(CCWS)は、『溶接・接合・積層による熱応力ひずみと破壊強度の評価』というテーマで、第18回講演会を接合科学研究所荒田記念館で開催し、103名の方々にご参加くださいました。今回は、大阪大学・船舶海洋工学コースの大沢直樹教授と大阪大学・接合科学研究所の麻寧緒教授から、それぞれ、長年で行われた「JWRIANを活用した造船工作・溶接疲労研究」と「溶接・接合・積層による熱応力ひずみと強度評価の研究」に関して回想を述べながらの特別講演があり、その他、慶応義塾大学の宮正毅教授、オーストラリアのウーロンゴン大学・Hongtao Zhu 教授、三菱重工業の藤谷泰之様、JSOLの齊藤啓、大阪公立大学の前田新太郎特任助教、DMG森精機の木谷悠二様、日本精工の堤雅子様、JFEスチールの大西洋一郎様、ジャトコの西本大地様、ダイキン工業のLI Weihao 様から講演がありました。また、休憩時間には、JSOL社、ASTOM社、Metalleco社からCAE技術と溶接自動化技術の展示が行われました。

## 6 研究所連携プロジェクト 公開討論会

阿部 浩也

研究所間連携戦略室 教授

国際・産学連携インヴァースイノベーション材料創出プロジェクト(DEJI<sup>2</sup>MAプロジェクト)の令和7年度公開討論会(第8回出島コンソーシアムセミナー)が、2026年3月14日(土)、東京科学大学湯島キャンパス3号館にて開催されました。東京科学大学生体材料工学研究所の影近弘之所長および主幹校である大阪大学接合科学研究所の藤井英俊所長による開会挨拶に続き、文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課の依幸嗣課長からビデオメッセージが寄せられました。川路均先生(東京科学大学)、Ruben Canton-Vitoria先生(名古屋大学/大阪大学)、梅津理恵先生(東北大学)、川下将一先生(東京科学大学)、田代真一先生(大阪大学)、乗松航先生(早稲田大学)より最新の研究成果が報告されました。さらに、71件のポスター発表が行われました。会場では終始活発な議論が展開され、その熱気は情報交換会にも引き継がれました。103名が参加し、盛況のうちに終了しました。



## 青色半導体レーザー接合加工共創コンソーシアム 第5期成果報告会

佐藤 雄二

接合プロセス研究部門 レーザプロセス学分野 准教授

2026年3月27日(金)、大阪大学接合科学研究所 荒田記念館において、「青色半導体レーザー接合加工共創コンソーシアム 2025年度成果報告会」を開催いたしました。当日は、元三菱重工業株式会社であり、現在は大阪大学招聘教授を務められている前川篤氏をお招きし、「AMが切り開く未来の製造業」と題した特別講演を行っていただきました。また、高出力青色半導体レーザーを活用したAM(Additive Manufacturing)技術に関する成果報告を3件実施するとともに、2025年度の収支決算報告および第6期「青色半導体レーザー接合加工共創コンソーシアム」の活動計画について説明いたしました。成果報告会には、対面53名、オンライン2名の計55名の皆様にご参加いただき、活発な質疑応答や意見交換が行われるなど、大変盛況のうちに終了いたしました。今後も本コンソーシアムでは、青色半導体レーザーを活用した接合・加工技術の発展と産学連携の推進に取り組んでまいります。



行事報告

2026年 いちよう祭

池田 倫正

接合評価研究部門 接合組織評価学分野 教授

2026年5月1日、2日に大阪大学いちよう祭が開催され、当研究所は5月2日に研究所一般公開を行いました。昨年と同様、はんだ付けを体験できる「スタンドグラス接合体験」、溶接・接合デモ実験を交えて行う「接合施設見学」の二つの催しを行い、それぞれ69名、53名の参加がありました。接合体験では、ものづくりの楽しさを体感していただき、また施設見学では、FSW、レーザ金属積層造形、4次元可視化などの最先端技術を紹介し、多くの方に接合研を知ってもらうことができました。



スタンドグラス接合体験



施設見学（摩擦攪拌接合）



施設見学（4次元可視化）

第23回 産学連携シンポジウム

刈屋 翔太

接合機構研究部門 複合化機構学分野 講師

第23回産学連携シンポジウムが2026年5月25日に大阪大学中之島センターにて開催されました。本シンポジウムは、接合科学研究所における最新の研究開発例を紹介し、産学連携の端緒とすることを目的に開催しているものです。本シンポジウムは4つのセッションから構成されており、セッション1では1件の共同利用・共同研究賞の受賞講演、セッション2では産学連携活動の事例紹介としてHonda-大阪大学 接合科学ものづくり協働研究所による講演、セッション3およびセッション4では接合科学研究所シーズ紹介として計7件（うち4件は若手研究者によるもの）の講演が行われました。当日は、学外企業より45名、学内からの41名が参加し、総勢86名が来場しました。各講演後には活発な質疑応答も行われ、その関心の高さがうかがえるとともに、産学連携のさらなる発展に向けた有意義な議論の場となりました。なお、今年度のシンポジウムは、第9回出島コンソーシアムセミナーとの併催として企画・運営されました。



各種賞受賞者等

受賞日	受賞者（所内）	賞等の名称	授与団体
2025年			
11月5日	塚本 雅裕	論文賞	（一社）スマートプロセス学会
11月5日	佐藤 雄二	論文賞	（一社）スマートプロセス学会
11月5日	竹中 啓輔	論文賞	（一社）スマートプロセス学会
11月27日	谷尾 朋洋（院生）	JAAA2025 シンポジウム賞 論文奨励賞	（一社）溶接学会
11月28日	梅田 純子	大阪大学賞（教育貢献）	大阪大学

**各種賞受賞者等**

受賞日	受賞者（所内）	賞等の名称	授与団体
11月28日	Spirrett Fiona	大阪大学賞（教育貢献）	大阪大学
11月28日	Hong Seong Min	大阪大学賞（教育貢献）	大阪大学
11月28日	山下 享介	大阪大学賞（若手教員部門）	大阪大学
11月28日	巽 裕章	大阪大学賞（若手教員部門）	大阪大学
12月10日	仲谷 将史（院生）	優秀研究発表賞	（一社）溶接学会
12月26日	新田 隼也（院生）	Mate+研究発表賞	（一社）スマートプロセス学会
12月26日	平瀬 加奈（院生）	Mate+研究発表賞	（一社）スマートプロセス学会
2026年			
1月26日	Spirrett Fiona	2026 Jubilee Global Excellence Award	Engineering Ceramics Division (ECD) of The American Ceramic Society (ACerS)
3月11日	西川 宏	MES2025 ベストペーパー賞	（一社）エレクトロニクス実装学会
3月11日	巽 裕章	MES2025 ベストペーパー賞	（一社）エレクトロニクス実装学会
3月11日	高橋 誠	MES2025 ベストペーパー賞	（一社）エレクトロニクス実装学会
3月11日	新田 隼也（院生）	MES2025 ベストペーパー賞	（一社）エレクトロニクス実装学会
3月11日	村田 夢実（院生）	MES2025 研究奨励賞	（一社）エレクトロニクス実装学会
3月11日	門井 浩太	学術記念賞（西山記念賞）	（一社）日本鉄鋼協会
3月11日	釜井 正善	依論文賞	（一社）日本鉄鋼協会
3月11日	森貞 好昭	依論文賞	（一社）日本鉄鋼協会
3月11日	潮田 浩作	依論文賞	（一社）日本鉄鋼協会
3月11日	藤井 英俊	依論文賞	（一社）日本鉄鋼協会
3月24日	寺前 拓馬（院生）	大学院研究奨励賞	（公社）自動車技術会
3月25日	吉田 環（院生）	優秀学生賞	（公社）計測自動制御学会
3月25日	巽 裕章	経済産業大臣賞（第十回ものづくり日本大賞）	経済産業省
4月22日	柴原 正和	論文賞	（一社）溶接学会
4月22日	石田 冬輝	全国大会優秀研究発表賞	（一社）溶接学会

**人事異動**

**【着任】**

2025年11月1日	技術補佐員	坂本 一三	採用
2025年11月16日	特任研究員	FURKAN	採用
2025年12月5日	派遣職員	森 明子	受入れ
2026年1月1日	特任研究員	朝日 信行	雇用
2026年3月1日	技術補佐員	安部 由朗	採用

## 人事異動

2026年4月1日	教授	柴原 正和	採用
2026年4月1日	教授	西畑 ひとみ	採用
2026年4月1日	特任教授	棕田 宗明	採用
2026年4月1日	特任教授	佐藤 英一	採用
2026年4月1日	准教授	生島 一樹	採用
2026年4月1日	特任准教授	武本 幸生	採用
2026年4月1日	特任准教授	RAMY SAEED SHAFEAK GADALLAH	採用
2026年4月1日	特任講師	前田 新太郎	採用
2026年4月1日	特任助教	加藤 拓也	採用
2026年4月1日	特任研究員（常勤）	加藤 光郎	採用
2026年4月1日	特任研究員	原田 尚彦	採用
2026年4月1日	特任研究員	河原 充	採用
2026年4月1日	職制係長	高井 泉	配置換
2026年4月1日	主任	辻 睦子	配置換
2026年4月1日	その他の事務職員	松原 由佳	配置換
2026年4月1日	その他の事務職員	横山 流世	採用
2026年4月1日	技術補佐員	花見 眞司	採用
2026年4月1日	事務補佐員	中島 直子	採用
2026年4月1日	事務補佐員	小林 小織	採用
2026年4月1日	招へい教授	下楠 善昭	受入れ
2026年4月1日	招へい教授	白井 秀彰	受入れ
2026年4月1日	招へい教授	茂田 正哉	受入れ
2026年4月1日	招へい教授	野瀬 哲郎	受入れ
2026年4月1日	招へい教授	大沢 直樹	受入れ
2026年4月1日	招へい教授	麻 寧緒	受入れ
2026年4月1日	招へい研究員	佐原 直樹	受入れ
2026年4月1日	派遣職員	井上 直美	受入れ
2026年4月1日	派遣職員	須田 佑子	受入れ

## 【離任】

2025年12月15日	特任研究員（常勤）	直永 卓也	退職
2025年12月31日	特任研究員（常勤）	GAO RUNHUA	退職
2025年12月31日	事務補佐員	菊地 路子	退職
2026年1月31日	特任助教	HUANG WENJIA	退職
2026年2月28日	特任事務職員	粉田 裕貴	退職
2026年2月28日	特任研究員	檜崎 邦男	退職
2026年3月31日	教授	麻 寧緒	退職
2026年3月31日	助教	山本 啓	退職
2026年3月31日	特任助教（常勤）	林 良彦	退職
2026年3月31日	特任助教（常勤）	浄徳 佳奈	退職
2026年3月31日	特任研究員（常勤）	池田 圭一郎	退職
2026年3月31日	特任研究員	南谷 良二	退職
2026年3月31日	技術補佐員	林原 知輝	退職
2026年3月31日	事務補佐員	福井 曜子	退職
2026年3月31日	事務補佐員	武田 寛子	退職
2026年3月31日	事務補佐員	廣瀬 江利子	退職
2026年3月31日	招へい教授	高橋 康夫	終了
2026年3月31日	招へい教授	大宮 正毅	終了

## 人事異動

2026年3月31日	招へい教授	江村 勝	終了
2026年3月31日	招へい教授	樽井 大志	終了
2026年3月31日	招へい研究員	荒井 勇次	終了
2026年3月31日	招へい研究員	嶋田 直明	終了
2026年3月31日	招へい研究員	渡邊 耕太郎	終了
2026年3月31日	招へい研究員	小林 晴彦	終了
2026年3月31日	招へい研究員	村川 敏浩	終了
2026年3月31日	招へい研究員	辰巳 佳宏	終了
2026年3月31日	招へい研究員	森本 健斗	終了
2026年3月31日	派遣職員	溝口 美保子	終了
2026年3月31日	派遣職員	森 明子	終了
2026年4月15日	特任事務職員	乾 純子	退職
2026年4月30日	事務補佐員	中島 直子	退職

## お知らせ

## 2026年度共同研究員募集について

毎年、多くの方に共同研究員に応募して頂きありがとうございます。2026年度につきましても共同研究員の募集を行っております。

募集要項は、[接合科学共同利用・共同研究拠点のウェブサイト](#)に掲載しております。

## 編集後記

5月とは思えない暑さを感じながら本稿を書いておりますが、本号が皆さまのお手元に届くころには、梅雨入りの季節を迎えているかもしれません。近年は気候の変化が一層顕著になっていることを実感しますが、それに加えて、社会情勢や研究を取り巻く環境も大きく変化しています。こうした変化は研究活動にも少なからず影響を与えており、柔軟に対応していく重要性を日々感じています。本号で紹介したシンポジウムや各種イベントも、そうした変化を捉え、新たな視点や連携を生み出す貴重な機会と位置づけています。今後も多様な交流を通じて時代の変化に向き合いながら、研究を進めていきたいと思っております。

(三上 欣希)

阪大接合研ニュースレター No. 58

2026年6月 発行

発行：大阪大学 接合科学研究所

編集：接合科学研究所 広報企画委員会

〒567-0047 茨木市美穂ヶ丘 11-1

TEL: 06-6879-8678 FAX: 06-6879-8689

URL: <http://www.jwri.osaka-u.ac.jp/>

X @JWRI1972